



後に六代将軍家宣を輩出した甲府徳川35万石の時代を経て、【小江戸・甲府】が文化全盛を迎えた元禄・宝永の時代にせまります。柳沢吉保が甲府城を治め、荻生徂徠をして「江戸と異なるところは無い賑わい\*」と言わしめたほどの活況が焦点。この地が持つ記憶を呼び起こし、往時の城下町甲府のまちづくりを〈山梨・甲府の未来に活かす〉議論を展開します。

\*『風流使者記』における〔荻生徂徠による甲府に関する描写〕  
1.原文 「人煙繁富、街坊整莊、肆貨環奇、人物都雅渾、与東都無殊」『甲斐叢書』3、435頁  
2.意味 「(甲府は)大勢の人々が行き交い、街並みの区画は整然としている。物資は珍しいものばかり、人も様々である。その街の在り様は江戸と異なるところはない」



新世紀甲府城下町研究会は、うすまりつつある山梨・甲府の歴史・文化を再発掘・発信し、往時の活気を取り戻すことを目的として、平成14年に発足しました。その間、130回以上にわたる研究会を重ね、理解を深めるとともに、行政団体に対して様々な提言を行ってきました。本年で発足から15周年を迎えるにあたり、記念シンポジウムを開催します。

# 蘇る小江戸・甲府 文化全盛！ まちの記憶を未来に活かす！

新世紀甲府城下町研究会 設立15周年記念シンポジウム

平成30年3月11日(日)  
14時開始(13時30分開場)  
山梨県立図書館 多目的ホール  
(入場無料)

新世紀甲府城下町研究会  
会長 小宮山 要



### 江宮隆之

1948年生まれ、山梨県出身。  
中央大学法学部卒業後、山梨日日新聞入社、編集局長・論説委員長などを経てフリーに。  
1989年、『経済記』で第13回歴史文学賞。1995年、『白鷺の人』で第8回中村皇湖文学賞を受賞。  
近著に、『立花宗茂』義という生き方』『將軍慶喜を吃った男 堀直虎』『藤田の人 韓国の上になったもう一人の日本人』『天下の雨敵、明治を拓く鉄道王山宮敬次郎の生涯』『明治維新を創った男 山縣大貳伝』。



### 高橋 修

1971年生まれ、山形県出身。  
東北大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士(文学)、東京女子大学現代教養学部准教授。  
主要著作は、『甲州博徒論の構想』(平川新編『庄』時代の政治と地域社会第2巻 地域社会と文化)、  
『甲州博徒抗争史論』(山梨県立博物館研究紀要17)、『近世甲府城下料理屋論序説』(山梨県立博物館展示図録『甲州食べもの紀行』)他。



### 石川 博

1957年生まれ、山梨県出身。  
慶応義塾大学卒業後、国語科の教員として長く駿台甲府高等学校の教壇に立つ。  
一時小学校の校長、山梨大学の講師を務める。編・著書に、『南総里見八犬伝』(角川文庫)、『鯉』(朝日社)他。  
山梨郷土研究会常任理事、やまなし県民文化祭小説部門審査員、山梨県富士山総合学術調査研究委員会所属。



### 山下孝司

1957年生まれ、山梨県出身。  
琉球大学法文学部史学科卒業。現在、甲府市教育委員会生涯学習文化課文化財係嘱託。  
編・著書に、『戦国期の城と地域—甲斐武田氏領地にみる城館』『甲信越の名城を歩く』(山梨編)他。  
武田氏研究会事務局長。



### 森 雄一

1969年生まれ、北海道出身。  
FM FUJIパーソナリティ。中央大学経済学部国際経済学科卒業後、日本政府観光局勤務。  
FM FUJI平日朝の情報番組 Yes! Morningの木曜日・金曜日を担当。番組内で『柳沢吉保〜是が甲府の花盛り〜』のコーナーに携わる。

## 城下町シンポ

11:00

開会  
主催者あいさつ

14:15

【第1部】 特別講演 江宮隆之氏

15:00

【第2部】 基調講演 高橋修氏

16:10

【第3部】 <リレートーク1> 石川博氏  
<リレートーク2> 山下孝司氏  
<リレートーク3> 森雄一氏

17:30

閉会

協賛	甲府商工会議所
後援	山梨県、甲府市、 山梨県法人会連合会、 山梨経済同友会、 山梨中央銀行、 甲府青年会議所、 NHK甲府放送局、 山梨日日新聞社、山梨放送、 テレビ山梨、エフエム富士
協力	山梨総合研究所

※こうふ開府500年記念事業  
(企画提案事業)

問い合わせ先

新世紀甲府城下町研究会

事務局 森屋・小池・小林(公益財団法人山梨総合研究所内) Tel:055-221-1020 〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-8-11 竹原ビル

シンポジウム参加申込書(FAX用) FAX: 055-221-1050

所属(学校名/会社名/団体名)	氏名	電話番号	E-mail

※ご記入いただく個人情報は、本事業以外の目的には使用しません。